

言葉のまやかして作られた安保関連法案が成立してしまいました。小学生でも分かる嘘で塗り固められた代物です。戦争放棄を宣言している我が国にこのような法律ができたこと自体、時の政権が独裁政権である証明です。集団的自衛権とは明らかに戦争そのものです。それを直接言わないのは、言葉の遊びに他なりません。戦争と言えは明らかに憲法違反なのですから、集団的自衛権というソフトな言葉に置き換えただけです。この法律が成立したことで日本は三等国に成り下がりました。アメリカという超大国に追随するだけの金魚の糞のような国です。我が国民の誇りはどこへ行ってしまったのでしょうか？憲法九条を守り抜くことこそが平和への唯一の道です。戦後70年間でそれを証明しているではありませんか。選挙制度でも違憲状態の国会が作った違憲の法律がまかり通ることは、日本国民の不幸中の不幸だと思います。皆様はどうお考えでしょうか？



### 【最近目立つ病気】

今夏、大流行した手足口病は秋の訪れとともにみられなくなりました。代わってRS感染症やマイコプラズマ感染症が目立ってきました。これらの感染症は頑固な咳が特徴です。

今年は、普通の風邪に罹患した後も咳が長引くことが多いようです。おたふくかぜが予想どおり流行してきました。近年は4年ごとの流行があり今年も当たり年なのです。

また、涼しくなるとウィルス性胃腸炎（おなかの風邪）がみられ出しました。便が白っぽくなるのはロタウィルスやノロウィルスが有名ですが、他のウィルスでも白っぽくなる場合があります。

季節の変わり目は、気管支喘息やアレルギー性鼻炎がみられます。今年は寒くなるのが早かったためか気管支喘息の症状を示す方が多くみられます。

### 【おたふくかぜ】

おたふくかぜウイルス（ムンプスウイルス）によるVPD（ワクチンで予防できる病気）です。かかっても軽症の場合が多いのですが、重い合併症を引き起こすこともありますのでワクチンによる予防が重要です。

世界の多くの国々では、おたふくかぜワクチンを定期接種を2回受けているので、流行はあまりありません。しかし日本では、任意接種ワクチンで接種費用が自己負担のうえ、これまでは1回だけ接種する習慣になっていました。そのため、平均すると毎年約60万人がかかって、多くの子どもたちが重い合併症で苦しんでいます。

症状や経過は、2～3週間の潜伏期の後に、両方またはどちらかの耳下腺がはれてきます。触ってもはつきり分からないこともあります。痛みがあります。家族など周囲の人が見ると腫れているのに気がつきません。しばらくすると反対側もはれてきます。発熱は起こることも、起こらないこともあります。症状が出ない（不顕性感染）場合もあります。またおたふくかぜ以外でも、耳下腺が腫れることもあります。周りでおたふくかぜが流行しているかどうか診断の助けになります。

おたふくかぜには多くの合併症があります。

無菌性髄膜炎が約50人に1人の割合で起こります。これを発症すると強い頭痛を訴え、嘔吐することもあります。

一生治らない重度の難聴になることがあります。約1,000人に1人の割合で、年間700人くらいがかかっていると推定されています。

脳炎が毎年約30人に起こっていて、障害が残ったり死亡したりすることもあります。

予防は、おたふくかぜワクチン（任意接種・生ワクチン）で予防します。1歳以後に1回、1回目の接種後数年（小学校入学前）で2回目を接種するのがおすすめです。

「KNOW★VPD 参照」

（<http://www.know-vpd.jp/index.php>）



### 【重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)】

SFTSは2011年に中国の研究者らによって発表されました。ブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新しいウイルスによるダニ媒介性感染症です。2013年1月に国内で海外渡航歴のない方がSFTSに罹患していたことが初めて報告され、それ以後他にもSFTS患者が確認されるようになりました。SFTSウイルスに感染すると6日～2週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状などを起こします。検査では白血球減少、血小板減少、肝機能障害が多くの症例で認められ、血清フェリチンの上昇や骨髄での血球貪食像（自己の白血球が自己の血球を食べることも認められることがあります。致死率は6.3～30%と報告されています。感染経路はマダニ（フタトゲチマダニなど）を介したものが中心ですが、血液等の患者体液との接触により人から人への感染もあり得ます。治療

は対症的な方法しかなく、有効な薬剤やワクチンはありません。

「国立感染症研究所 参照」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/sa/sfts.html>

### 【インフルエンザワクチン内容変更】

インフルエンザワクチンは昨年まではA型2種類、B型1種類の内容でしたが、今回からB型も2種類となりました。B型の流行を抑えるために3価から4価となりました。これに伴い製造単価が上がったためワクチン接種料金も値上げすることになりました。当院でも、たいへん申し訳ありませんが、1回の接種料金は¥3500とします。何卒ご了承ください。2回目の接種を指示された方については2回目は¥3000となります。

当院のやり方は、生後6か月から就学前の方については、初めて接種される場合は2～4週間隔で2回接種、前年接種済みの方は1回接種です。小学生以上の方は前年の接種の有無に関わらず1回接種です。接種のやり方は各医院で違いますので、疑問のある方は遠慮なくお尋ねください。



☆大手町の夜間急病診療所（Tel:222-0099）では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は10/29、1/1、1/21、2/21の予定です。なお、12/6、2/11は当番医です。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン（おたふくかぜ・インフル）についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

